

	<h2>匠の技を小学生が体験！</h2> <h3>～ 伝統の「かな料紙」に、筆と墨で文字を刻む～</h3>
と き	平成 28 年 8 月 12 日 (金) 午後 2 時～午後 5 時
と こ ろ	練馬区立北町児童館 (北町 1-19-17)
<p>区は、12日、区立北町児童館(北町1丁目)で、夏休み体験イベント「匠の技を体験しよう『書道家&かな料紙職人』」を開催し、児童17人が匠の技を体験した。</p> <p>まずは、日本に数人しかいない、かな料紙職人の小室久(こむろひさし)さんの指導のもと、書道のかな文字を書くための用紙である「かな料紙」を、台紙に張り付けて色鮮やかな模様を付けた。</p> <p>つぎに書道家の田山稔夫(たやまとしお)さんから、書道の指導を受けて、出来上がったばかりの「かな料紙」の台紙に、筆と墨を使って、思い思いの文字を刻んだ。</p> <p>当日参加した小学2年の児童は、「習字を習っているけど、普通の習字の紙と違って、かな料紙に書くのは難しかったです。墨の文字が浮かび上がってきれいです。」と話してくれた。</p> <div data-bbox="1136 584 1489 801"></div> <p data-bbox="1182 808 1474 835">思い思いの文字を刻んだよ</p> <div data-bbox="1136 853 1489 1099"></div> <p data-bbox="1182 1111 1422 1167">夏らしく「海」と書きました</p>	

【かな料紙とは】

書道のかな文字を書くための用紙をかな料紙といいます。

平安時代の後半(11～12世紀)、日本独自のかな文字が発達しました。

この期間に多くの「古筆」と呼ばれる古典が残されています。内容は、古今和歌集、和漢朗詠集、万葉集などです。「古筆」は、装飾された和紙に美しいかな文字で書かれています。

「古筆」に使われている装飾された和紙をお手本として、かな料紙は作られています。

(出典：小室かな料紙工房ホームページより)

【参考】講師の紹介

田山稔夫(たやまとしお)氏

1961年生まれ。書道家

公益財団法人独立書人団運営委員会委員

毎日書道展審査会員

田山氏の師である小林抱牛(こばやしほうぎゅう)氏(2010年85歳で死去)は、練馬区早宮に住居を構えていた。かつて練馬区立北町小学校の教諭を務めており、現在北町小学校の正門にある校名のプレートは、小林抱牛氏が書いたものではないかと言われている。

小室久(こむろひさし)氏

1962年生まれ。かな料紙職人。常陸太田市無形文化財指定。

米田版画工房にて、摺師米田稔氏より伝統木版画を学ぶ。

かな料紙製作を父小室義久氏より継承する。

小室氏が修業していた米田版画工房は、かつて練馬区豊玉南にあった。